

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, April, 2007

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

4月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 E2 (Lovejoy) (写真 a、b)

4月に入ってから国内でも観測し見易い位置に上がってきた。

昨年、念願のマイホームと自宅天文台を完成させた長野市の大島雄二氏が4月4日早朝30cm反射+CCDで観測し彗星課メーリングリスト(以下 oaa-comet ML)で報告した。核等級13.5~13.7等であった。

また、4月10日早朝には高知市の下元繁男氏が20cm反射+CCDで観測し oaa-comet MLに「今朝 C/2007 E2 (Lovejoy)をやっと撮ってきました。黄砂なのか薄い雲なのかわからない透明度の悪さに明るい半月が反射してひどく明るい空でした。…」とコメントし CCD 全光度を13.0等と報告している。

眼視では、4月17日、芸西天文台の関課長が oaa-comet MLで「C/2007 E2は見違えるように明るく大きく見えてきました。眼視で尾は見えません。コマが大きく広がって中心集光が著しいようです。…」と知らせてきた。

4月28日早朝に観測した千葉県船橋市の張替憲氏は、うす雲に悩まされながら「過去2回観測に出かけましたが、この季節、他の地域は晴れていても千葉県総だけは夜になると低層の雲が出てしまい観測が出来ませんでした。以下は茨城県坂東市での眼視観測です。当夜は薄雲が去来し光害もあって4等星がやっと見える程度の空でした。そのためか非常に拡散した印象で尾も全く見えませんでした。」と報告してきた。

眼視による観測が次のように報告されている。

2007	UT	ml	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Apr.	16.78	7.8	4'	7	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	26.70	8.9	8	3/	-	-	5/5	8/10	25×10cmB	佐藤裕久	
	27.75	9.0	5.5	3	-	-	2/5	2/10	25×10cmB	〃	
	27.79	9	7	2/	-	-	2/5	6/10	49×32cmL	張替 憲	
	28.74	8.6	6	4	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一	
	28.75	9.0	6	3/	-	-	4/5	7/10	25×10cmB	佐藤裕久	Alt. 76°
	29.75	8.9	3.9	5	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一	

☆ 96P/Machholz 1 (写真 c、d、e)

4月2日、筆者が oaa-comet MLで「96P/Machholz 1がSOHO/LASCO C3の視野に入ってきました。ちょうど2007/04/02 12:42の文字04の上で、太陽のマスクの支柱に重なっています。今後画面の左下から左上に移動して見えます。」と知らせた。前月の彗星課月報に「国内では4月中旬には明け方の東天に昇ってくるのでその時捉えられるだろう。」と書いたが、

4月10日早朝、太陽から離れるのを待って上尾市の門田健一氏が超低空でこの彗星を捉えるのに成功した。

4月13日、門田氏から oaa-omet ML に「彗星会議では、大変お世話になりました。とても充実した楽しい2日間でした。さて、夜明けの超低空(高度約3度)で96Pを捉えました。薄雲を通しての観測ですが、集光した明るい姿です。」と報告があった。CCD全光度は、6.8等であった。

門田氏の報告の直前に高知市の村岡健治氏から oaa-comet ML に「349により、96Pが5年ぶりに観測されました。改良軌道と残差は、下記のとおりです。彗星年表2007の予報どおり(ほぼ)です。」との報告があった。

さらに門田氏は4月15日早朝に観測し、oaa-comet ML に「なんと!96Pに尾が3本!」と題する報告があった。「天候に恵まれて、再び明るい96Pを観測できました。10秒露出×24フレームをコンポジットした画像を測定しました。集光は強くコマは明るいです。位置角339度に長さ7分角の広がった淡い尾、位置角306度にやや明るい長さ5.5分角の尾、そして位置角185度に彗星側が広く先端が尖った長さ2分角の尾が見られます。」

4月30日、吉田誠一氏からは、「予想外に明るく、集光も強く、はっきり見えたので驚きました。Lovejoyよりも集光が強いくらいで、楽に見えます。太陽の近くでしか明るくならず、離れると急激に暗くなってしまう彗星だと思っていましたが、高度も十分に高く、まったく楽勝でした。」と oaa-comet ML に報告があった。

眼視による観測が次のように報告されている。

2007	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Apr.	16.81	8.8	3'	6	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	28.76	10.7	2.2	5/	-	-	-	-	75×40cmL	吉田誠一	
	29.76	10.9	1.6	5	-	-	-	-	144×40cmL	〃	

その他彗星の検出・発見は次のとおり。

☆ P/1999 J5 = P/2007 E3 (LINEAR)

E. J. Christensen は、彼自身による3月9日と R. A. Kowalski による3月10日の Mt. Lemmon Survey の画像から P/1999 J5 を検出した。小惑星センターの G. V. Williams は、Kowalski によって得た4月7日の画像も確認した。MPC 54170 の予報に対する修正値は $\Delta(T) = -0.8$ days であった。(IAUC 8827, 2007 Apr. 7)

その後、番号登録が 187P/LINEAR となった。

☆ C/2007 G1 (LINEAR)

4月10.38日 UT、小惑星状の天体が LINEAR サーベイによって発見された。直ちに NEOCP ウェブページに掲載され、幾人かの CCD 観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8828, 2007 Apr. 12)

☆ C/2007 H1 (McNaught)

4月17.79日 UT、R. H. McNaught は、0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た Siding Spring Survey の画像からコマと尾のある彗星を発見した。(IAUC 8830, 2007 Apr. 20)

☆ C/2007 H2 (Skiff)

4月19.26日 UT、B. A. Skiff (Lowell 天文台) は、0.59-m LONEOS Schmidt 望遠鏡で得た画像から集光あるコマと狭い尾のある彗星を発見した。(IAUC 8831, 2007 Apr. 20)

☆ C/2007 H3 (Garradd)

4月22.51日 UT、G. J. Garradd は、0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た Siding Spring

Survey の画像から微かな尾のある彗星を発見した。(IAUC 8833, 2007 Apr. 25)

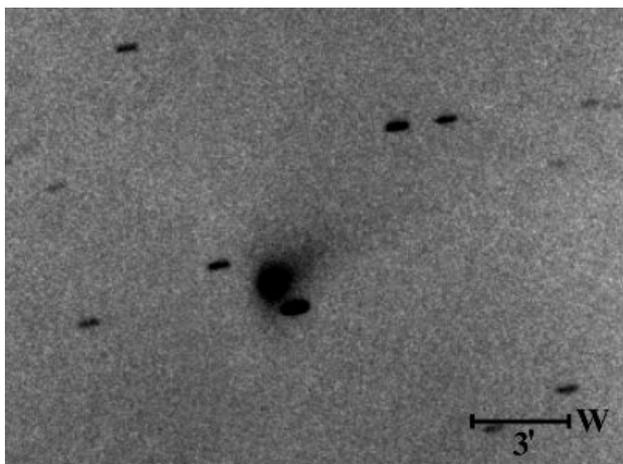
その他比較的明るい彗星は、C/2007 E1 (Garradd) (写真 f)、C/2006 XA₁ (LINEAR)、C/2006 VZ₁₃ (LINEAR) などであった。



(写真 a) C/2007 E2 (Lovejoy) 2007, 04, 18
3h 38m~40m (JST) exp. 120s 60cmL TMY400 Film
芸西天文台 関 勉



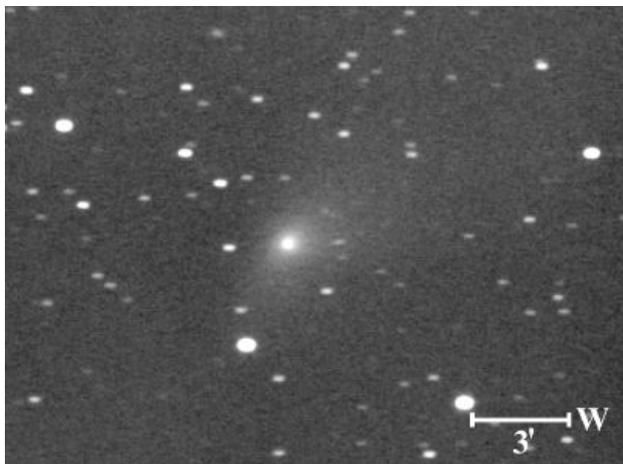
(写真 b) C/2007 E2 (Lovejoy) 2007, 04, 29
0h 43.0m~54.5m (JST) exp. 150s x4 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) 96P/Machholz 1 2007, 04, 14
Apr. 14.795 UT exp. 10s x28 25cm L + CCD
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 d) 96P/Machholz 1 2007, 04, 20
4h 14.0m~19.5m (JST) exp. 60s x4 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 e) 96P/Machholz 1 2007, 04, 28
Apr. 28.751 UT exp. 20s x12 25cm L + CCD
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 f) C/2007 E1 (Garradd) 2007, 04, 28
21h 21.5m~31.5m (JST) exp. 60s x7 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏